

【アクションプラン評価表】：認定こども園

| マスタープラン | 最終目標 | 担当部署 | アクションプラン | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|---|---|-------|---|------|------|------|------|------|
| 安定的な園児数確保に向けた方策の策定・実行 | <p>○時代のニーズに合った広報活動を通して、園舎、園庭の環境や、安全・安心なこども園をアピールしていく。</p> <p>○入園につながる未就園児対象の保育の定着を確実にする。</p> <p>○人口動態を把握しつつ、保護者層の集まる街の行事に参加し、知名度を上げる。</p> | 担当教職員 | 1) 入園案内、広報紙、ホームページ、看板、掲示板等の充実 | B | B | A | A | A |
| | | | 2) 園庭の環境を生かした花壇等の整備 | C | B | B | A | A |
| | | | 3) 園舎内外の安全点検（総合遊具や樹木管理を含む） | C | B | A | A | A |
| | | | 4) 保護者の声を生かした行事づくり | B | B | A | A | A |
| | | | | | | | | |
| 優秀な保育教諭を確保し、育成するためのシステム作りと実行 | <p>○理事会、大学等との連携の下優秀な保育教諭を確保する方策を確立する。</p> <p>○大学の国際交流の実績を踏まえ、海外の幼児教育保育関係者との交流の機会を持つ。</p> <p>○経験年数に応じた研修の工程を関係機関との連携の下、構築する。</p> | 担当教職員 | 1) 保育教諭確保につながる勤務環境の調整 | B | B | B | B | A |
| | | | 2) 連携にふさわしい海外の教育保育施設の調査 | C | B | A | A | E |
| | | | 3) これまでの研修実績の見直し | B | B | B | B | B |
| | | | 4) キリスト教保育をテーマとした園内研修の実施 | C | B | B | B | A |
| | | | | | | | | |
| 総合学園の中での、特に大学と連携した教育保育・研究の充実（特色ある表現教育等） | <p>○大学教員の協力を得て、学びの多い園内研究会や公開保育を実施する。</p> <p>○大学と連携した特色ある表現教育実践集を発刊する。</p> | 担当教職員 | 1) 研究紀要を利用した研究会の実施 | E | — | — | — | — |
| | | | 2) 公開保育の記録集の発刊 | D | A | — | — | — |
| | | | 3) 表現教育についての勉強会 | B | B | A | A | A |
| 「子育て支援」を軸とした地域連携の強化（子育て世代とシニア世代を | <p>○学園子育て支援を含む地域の子育て支援事業に積極的にかかわる。</p> <p>○地域のシニア世代が訪れる</p> | 担当教職員 | 1) 学生のボランティアを活用した子育て支援の実施（せいじ園の園友祭への参加ほか） | A | A | — | — | — |
| | | | 2) シニア世代と園児との交流の促進 | B | B | A | A | E |

| マスタープラン | 最終目標 | 担当部署 | アクションプラン | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|---------|--|------|--|------|------|------|------|------|
| つなぐ存在に) | ことのできる環境の整備をする。 ○様々な世代の人々との交流を促進する。 | | | | | | | |
| | | | 3) 職場体験をする中高生や園行事等に参加する様々な世代の人々(学生、留学生も含む)と園児との交流の促進 | — | — | A | A | C |

※評価 A : 90%以上達成 B : 75%程度達成 C : 50%達成 D : 25%程度達成 E 10%以下の達成

【認定こども園】

アクションプラン・進捗状況・実行結果

部署名：認定こども園

| | |
|-------------------------------------|---|
| <p>マスタープラン</p> | <p>安定的な園児数確保に向けた方策の策定・実行</p> |
| <p>最終目標</p> | <p>○時代のニーズに合った広報活動を通して、園舎、園庭の環境や、安全・安心なこども園をアピールしていく。 ○入園につながる未就園児対象の保育の定着を確実にする。 ○人口動態を把握しつつ、保護者層の集まる街の行事に参加し、知名度を上げる。</p> |
| <p>アクションプラン</p> | <p>実行結果（達成状況も踏まえる）</p> |
| <p>1)入園案内、広報紙、ホームページ、看板、掲示板等の充実</p> | <p>【2016年度】評価：B わかり易い入園案内の作成に更に努めていく。ホームページは更にスピード感を持ってリニューアルしていく。駐車場等における看板の充実を目指す。各々の園の特色を生かした掲示板の活用を更に進めていく。 【2017年度】評価：B 入園案内について、業者を替え価格を抑えながら、より良いものが作成できた。ホームページについて2017年度中にリニューアルの準備を行った。 【2018年度】評価：A 子育て支援事業の案内や園内の行事毎の写真を掲載するなど新しくなったホームページを積極的に活用した。 【2019年度】評価：A 入園案内を見開き1枚とし、見やすくした。旧名称のままであったせいじ園看板を新調した。ホームページの活用がより地域に定着し、子育て支援事業への参加等に役立った。 【2020年度】評価：A 見学会の開催と願書配布開始日の新聞折り込み広告を行い、見学会の参加者や入園者の増加に効果が見られた。</p> |
| <p>2)園庭の環境を生かした花壇等の整備</p> | <p>【2016年度】評価：C 四季が感じられるクラスごとの花壇の充実を試みた。今後花壇の広さに応じて花壇の整備、苗の数を増加していきたい。 【2017年度】評価：B 花壇内の石を掘り起し、土壌の改良を行い花苗の増加を行った。より見栄えのする、季節感の感じられる花壇の整備に努める。 【2018年度】評価：B 花壇内の除草作業を行い季節感の感じられる草花を植え付け、さらにプランターを用意してクラスごとの花を配置するなどした。学園メインストリートから展望されるみらい園門前の花壇の整備に努める。</p> |

※評価 A：90%以上達成 B：75%程度達成 C：50%達成 D：25%程度達成 E 10%以下の達成

| | |
|---------------------------|--|
| | <p>【2019年度】評価：A 園庭の花壇やプランターに季節の草花を育てるほか、せいじ園ではフェンスを利用してブドウを栽培し、収穫した。また、せいじ園では園内の小さな空き地を利用し、手作り花壇を作った。</p> <p>【2020年度】評価：A せいじ園においては季節の草花の栽培の他、ぶどう、みかん等実のなる木の収穫を行い教育上の効果が得られた。また、せいじ園花壇内に聖句の石碑を設置した。</p> |
| 3)園舎内外の安全点検（総合遊具や樹木管理を含む） | <p>【2016年度】評価：C 総合施設の経年変化を見据えて、安全点検を更に充実していきたい。年数のたった樹木には、安全面に配慮しながら、造園業者の助言を仰ぎ、維持管理に努めていく。</p> <p>【2017年度】評価：B せいじ園の教室・廊下等の壁紙補修、出入り口扉の修繕を行った。また、園庭の外に張り出した桜の枝の伐採等を行った。今後も両園の施設、樹木、遊具の点検を行い、安全に配慮して行く。</p> <p>【2018年度】評価：A 専門業者に遊具の点検を依頼し、遊具の安全を確認する。</p> <p>【2019年度】評価：A せいじ園では玄関出入り口の修繕を行った。みらい園では総合遊具の補修、ブランコの点検を行った。今後も遊具の安全点検、樹木の安全上の手入れを行う。</p> <p>【2020年度】評価：A 両園とも業者による有料の遊具点検を初めて行った。より入念な点検を行い、今後の遊具の補修の指針となった。みらい園の築山は足場の傷みにより撤去した。再建については今後の検討課題とする。また、みらい園では駐車場側に北門を設置した。</p> |
| 4)保護者の声を生かした行事づくり | <p>【2016年度】評価：B 保護者の声を生かした活動が大分進められた。みらい園では、卒園式で着用するガウンを新調することができた。更に、各園の特色を生かした行事づくりを進めていく。</p> <p>【2017年度】評価：B みらい園では前年度のガウン新調に続き2017年度に帽子を新調できた。保護者の会の負担軽減をはかりながらも、保護者の要望に耳を傾け、特色ある行事づくりを進めて行く。</p> <p>【2018年度】評価：A 保護者の会総会や自己点検評価等で保護者からの意見や要望に耳を傾け、こども園らしい行事をみつきたい。</p> |

※評価 A：90%以上達成 B：75%程度達成 C：50%達成 D：25%程度達成 E 10%以下の達成

| | |
|--|---|
| | <p>【2019年度】評価：A 保護者の負担軽減のため、保護者の会の活動の縮小を進めた。これにより保護者の声が届きにくくなることが無いよう配慮していく。</p> <p>【2020年度】評価：A 新型コロナの影響により多くの行事が変更を余儀なくされたが、保護者アンケートにより保育参観の強い希望があることが判明した。年度末に年長児クラスのみ参観を行い好評であった。保護者の会の活動縮小は入園を考える層に情報が広まっており、効果があったと考えられる。</p> |
|--|---|

アクションプラン・進捗状況・実行結果

部署名：認定こども園

| | |
|-----------------------|---|
| マスタープラン | 優秀な保育教諭を確保し、育成するためのシステム作りと実行 |
| 最終目標 | <ul style="list-style-type: none"> ○理事会、大学等との連携の下優秀な保育教諭を確保する方策を確立する。 ○大学の国際交流の実績を踏まえ、海外の幼児教育保育関係者との交流の機会を持つ。 ○経験年数に応じた研修の工程を関係機関との連携の下、構築する。 |
| アクションプラン | 実行結果（達成状況も踏まえる） |
| 1) 保育教諭確保につながる勤務環境の調整 | <p>【2016年度】評価：B 非常勤講師・保育士の時給の値上げが大分進められた。保育教諭の確保を確実にし、休憩時間の保障に努めた。</p> <p>【2017年度】評価：B 休憩時間の改善が図られ職員の勤務環境が改善された。非常勤講師・保育士の新規程が施行され、より安定した雇用が可能となった。</p> <p>【2018年度】評価：B 処遇改善手当支給に向けた規程の整備を行い、年度末に一時金として支給することができた。こども園で働く教職員の賃金改善を行ったことで働く意欲が増し、意識改革に繋がった。志願者から見て周囲の施設との比較に耐える賃金体系について検討する。</p> <p>【2019年度】評価：B 特契以上の教員については協定書を交わし、休日労働、残業の基準ができた。勤務環境の改善につなげたい。</p> <p>【2020年度】評価：A 「シフト制」の導入により勤務の公平性がより改善された。また残業の制度化により業務の効率化が進んだ。</p> |

※評価 A：90%以上達成 B：75%程度達成 C：50%達成 D：25%程度達成 E 10%以下の達成

| | |
|---------------------------------|---|
| <p>2) 連携にふさわしい海外の教育保育施設の調査</p> | <p>【2016年度】評価：C 海外の施設との幼児画の交換ができた。今後更に調査を進め、継続的な交流ができていくことを目指していく。</p> <p>【2017年度】評価：B フィンランドにおける研修に専任保育教諭1名を派遣した。報告によって研修結果を共有した。海外研修を継続的に実施することで専任教員のスキルアップに繋げたい。</p> <p>【2018年度】評価：A 前年度に引き続きフィンランドの幼児教育の現場研修をすることができた。研修結果は園内の教員が共有しており、今後の保育活動に生かされる。今後もこの研修を継続し教員のスキルアップを図りたい。</p> <p>【2019年度】評価：A 前年度に引き続きフィンランドの幼児教育の現場研修をすることができた。今後もこの研修を継続し教員のスキルアップを図りたい。</p> <p>【2020年度】評価：E 新型コロナの影響により海外研修は実施されず、代替の研修等も行われなかった。よって今回単年度としての評価は「E」とした。状況が改善され次第、研修の継続を検討したい。</p> |
| <p>3) これまでの研修実績の見直し</p> | <p>【2016年度】評価：B 園内研究会は年1回とし、中身の充実に努めた。外部団体の研修会については、内容を吟味し、業務に支障のない範囲のものを選択した。今後、情報収集に努め、本園に役立つ研修会の参加に努める。</p> <p>【2017年度】評価：B 11月に園内研究会を行った。外部の研修会については今後も業務に支障のないよう吟味しつつ、情報の共有に努める。</p> <p>【2018年度】評価：B 「研究紀要」の存続について検討し、保育者の業務に支障のない研修のあり方について工夫する。</p> <p>【2019年度】評価：B 「研究紀要」の刊行終了を決めた。より保育者に負担の少ない研修の在り方を検討していく。 園内研究会を行った。今年度は地域の小学校にも参加を呼びかけ、幼小連携に努めた。 保育者は長期休暇中を中心に外部研修に参加。数名はキャリアアップ講習会に参加し、スキルアップに努めた。</p> <p>【2020年度】評価：B 園内研究会は新型コロナの影響により両園合同ではなく各園での開催とした。また近隣小学校への参加呼びかけも行わなかった。外部研修も中止されたものが多かった。そのような中でも情報の共有に努めた。</p> |
| <p>4) キリスト教保育をテーマとした園内研修の実施</p> | <p>【2016年度】評価：C 講師との連携のもと、職員会の中での園内研修が実施できた。更に連携を深め、回数を増加していきたい。</p> |

※評価 A：90%以上達成 B：75%程度達成 C：50%達成 D：25%程度達成 E 10%以下の達成

| | |
|--|--|
| | <p>【2017年度】評価：B 職員会にチャプレンを招きキリスト教保育に関する研修を行った。</p> <p>【2018年度】評価：B 年度初めの職員会において、チャプレンによるキリスト教主義についてお話しいただいた。新人からベテランまで学園の教育理念をこころに刻むことができた。</p> <p>【2019年度】評価：B 年度初めの職員会においてチャプレンよりキリスト教主義についてお話しいただいた。保育のシフト内での参加のため全員参加とならないことが課題である。</p> <p>【2020年度】評価：A 年度初めの職員会においてチャプレンよりキリスト教主義保育についてお話しいただいた。従前より行われている月刊「キリスト教保育」の回覧について、自己点検のための職員アンケートからその有用性がうかがわれた。</p> |
|--|--|

アクションプラン・進捗状況・実行結果

部署名：認定こども園

| | |
|--------------------|--|
| マスタープラン | 総合学園の中での、特に大学と連携した教育保育・研究の充実（特色ある表現教育等） |
| 最終目標 | ○大学教員の協力を得て、学びの多い園内研究会や公開保育を実施する。 ○大学と連携した特色ある表現教育研究実践集を発刊する。 |
| アクションプラン | 実行結果（達成状況も踏まえる） |
| 1) 研究紀要を利用した研究会の実施 | 【2016年度】評価：E 全体での研究会の時間の確保が難しいため、各自の研究にゆだねて、中止とした。 |
| 2) 公開保育の記録集の発刊 | 【2016年度】評価：D 記録集に載せる充実した保育実践を選択することができた。発刊にいたる作業を進めていく。 【2017年度】評価：A 3月20日付で「平成29年度保育実践集 保育って素晴らしい～保育者たちの想いをつなぐ～」を発刊し、本プランは終了とする。 |
| 3) 表現教育についての勉強会 | 【2016年度】評価：B 大学教員の協力のもと、3歳、4歳、5歳児対象の表現教育を実施できた。今年度は3つの領域【陶芸、昔話語り、音楽】に広げた。今後、勉強会につながる記録作りに努めていく。 【2017年度】評価：B |

※評価 A：90%以上達成 B：75%程度達成 C：50%達成 D：25%程度達成 E 10%以下の達成

アクションプラン・進捗状況・実行結果

部署名：認定こども園

| | |
|--|---|
| | <p>従来通りの表現教育を実施できた。</p> <p>【2018年度】評価：A 大学教員（文学部）の協力のもと従来通りの表現教育を実施することができた。今後も継続することはもちろんだが、他学部の協力を探っていきたい。</p> <p>【2019年度】評価：A 大学教員の協力のもと表現教育を実施することができた。3歳児対象の内容は本学教員の異動のため他大学より講師を招いて行った。</p> <p>【2020年度】評価：A 昨年同様の表現教育の活動を実施したが、美術分野では陶芸体験に代わりおもちゃ作りを行った。ユニークな内容であり、保育者にとっても大いに参考になった。</p> |
|--|---|

アクションプラン・進捗状況・実行結果

部署名：認定こども園

| | |
|---|--|
| マスタープラン | 「子育て支援」を軸とした地域連携の強化（子育て世代とシニア世代をつなぐ存在に） |
| 最終目標 | <ul style="list-style-type: none"> ○学園子育て支援を含む地域の子育て支援事業に積極的ににかかわる。 ○地域のシニア世代が訪れることのできる環境の整備をする。 ○様々な世代の人々との交流を促進する。 |
| アクションプラン | 実行結果（達成状況も踏まえる） |
| 1) 学生のボランティアを活用した子育て支援の実施（せいじ園の園友祭への参加ほか） | <p>【2016年度】評価：A 学生の保育力が発揮され、子育て支援が実施できた。次年度も同様に実施し、個々の学生のボランティアの希望にも応えていく</p> <p>【2017年度】評価：A 高等学校JRC、インタラクティブがせいじ園において活動を行った。その他大学生のボランティアが多数訪れ子育て支援に協力した。今後、発展的に3)（2018年度アクションプラン）の項目へ移行し、より広い世代、立場の人々と園児との交流に努める。</p> |
| 2) シニア世代と園児との交流の促進 | <p>【2016年度】評価：B 地域コミュニティーセンターの方や日立百年塾子育て支援部会の方々との交流が実施された。孫と遊ぶ会や行事を通して、後援会役員の方々を含めたシニア世代との交流を更に深めていく。</p> <p>【2017年度】評価：B</p> |

※評価 A：90%以上達成 B：75%程度達成 C：50%達成 D：25%程度達成 E 10%以下の達成

アクションプラン・進捗状況・実行結果

部署名：認定こども園

| | |
|---|--|
| | <p>せいじ園において助川町敬老会に参加するほか、老人保健施設訪問を行った。 【2018年度】評価：A 昨年度と同様の取り組みを行った。 【2019年度】評価：A 孫と遊ぶ会等の行事を通してシニア世代との交流を行った。 せいじ園において例年参加してきた助川町敬老会は日程の都合で今年度は参加できなかった。 【2020年度】評価：E 新型コロナの影響により、シニア世代との交流は控えた。よって今回単年度としての評価は「E」とした。状況が改善され次第、積極的に交流の機会を設けたい。</p> |
| <p>3) 職場体験をする中高生や園行事等に参加する様々な世代の人々（学生、留学生も含む）と園児との交流の促進</p> | <p>【2018年度】評価：A 園児たちは学園内の中高生や大学生と交流を持つことができ、外国からのインターン学生との交流ができるようになった。インターンの学生はいろいろな国から来ており、園児たちは良い刺激を受けている。 【2019年度】評価：A 学園内の中高生ボランティアやインターン生、大学生との交流のほか、近隣中学校より家庭科授業の一環として来園するなど多くの交流を持った。 【2020年度】評価：C 新型コロナの影響により中高生やインターン生との交流は控えた。感染拡大の様子に配慮しながら、可能な限り大学生のボランティアを受け入れた。よって今回単年度としての評価は「C」とした。</p> |

※評価 A：90%以上達成 B：75%程度達成 C：50%達成 D：25%程度達成 E 10%以下の達成